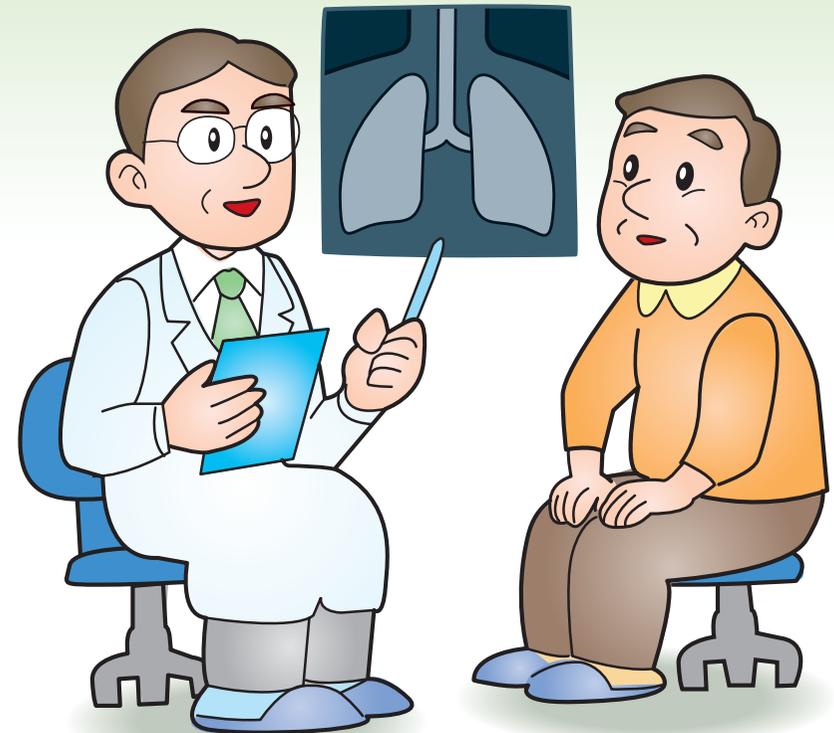


肺がんの手術後に
ナベルビンとシスプラチンによる
治療を受ける患者様へ

肺がんの手術後に
ナベルビンとシスプラチンによる
治療を受ける患者様へ

病・医院名



はじめに

この冊子は、肺がんの手術後にビノレルビン酒石酸塩 (VNB; ナベルビン®) とシスプラチンによる治療を受ける患者様が、医師からの説明をより正しく理解できるように作成された補助資料です。治療の方法や起こりうる副作用とその対策についてご理解いただき、安心して治療を受けていただくことを目的としています。

不明な点や不安に思うことがありましたら、遠慮せずに担当の医師等へご相談ください。



治療の目的

肺がんの手術では、目に見えないごく微小のがんが残る可能性があります。そこで、その残ったがんを根絶する目的で、手術を受けた患者様を対象として、手術後に抗がん剤による治療を行います。これを術後補助化学療法じゅつごほじょかがくりょうほうといいます。

この術後補助化学療法は、アメリカとヨーロッパを中心とした臨床試験で効果が証明されています(図)。なかでも、最近のいくつかの研究では、ナベルビンとシスプラチンを併用した治療において、がんの再発抑制や延命に効果があると報告されています。また一方で、これらの抗がん剤による治療では強い副作用が起こることがありますが、今日では投与方法に様々な工夫をすることによって副作用を抑え、通院による治療を行える可能性が高まっています。

目次

治療の目的

2

治療のあらまし

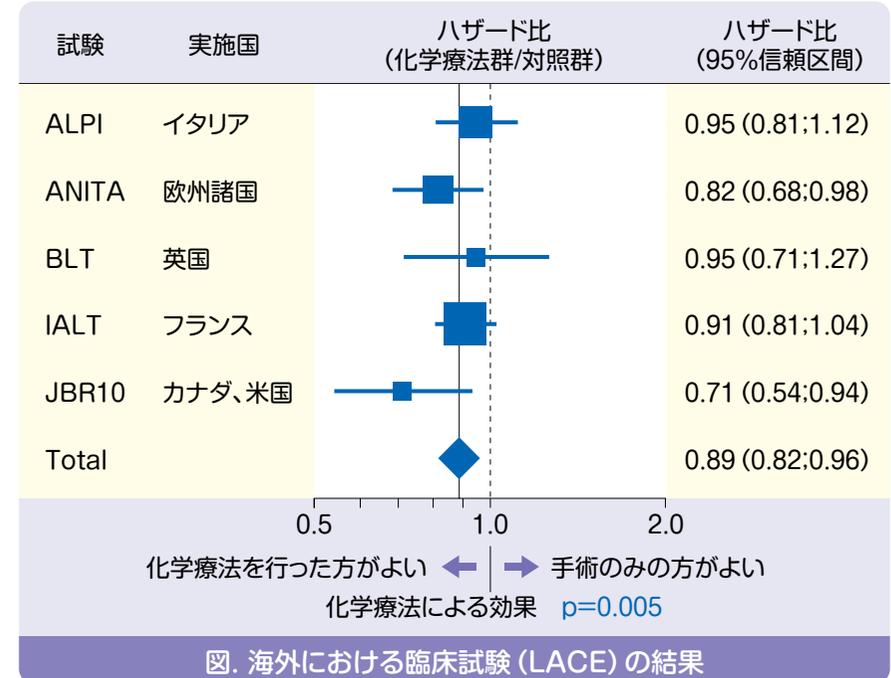
3

投与方法とそのポイント

4

副作用とその対策

5-6



副作用とその対策

この治療で起こる副作用の多くは一時的で、治療終了後に次第に症状が治まります。安心して治療を受けていただくために、どんな副作用がいつ現れるか、またその対策を事前に知っておくようにしましょう。

主な副作用

患者様によって、副作用が起こる頻度や程度が異なります。

投与中～投与直後に現れる副作用

- 投与部位の痛み、腫れ
- 投与側の腕の血管の痛み、変色など

※少しでも違和感がありましたら、医師に伝えましょう。



投与数時間～数日で現れる副作用

- 吐き気、嘔吐おうと
- 発熱
- アレルギー反応（皮膚の赤み、かゆみ、じんましんなど）
- 食欲不振
- 投与部位障害、静脈炎
- 倦怠感
- 背部痛



投与数日～数週間で現れる副作用

- 感染しやすくなる（発熱、肺炎など）
- 手足のしびれ
- 難聴
- 便秘
- 尿量減少
- 口内炎



副作用対策

● 吐き気、嘔吐が現れたときは

実際に吐いた場合は、冷水などでうがいをし、安静を保ちましょう。吐き気や嘔吐がみられるときの食事には、おにぎりや麺類、酢の物などが適しています。高カロリーや高脂肪のものは避けましょう。

● 投与部位障害、静脈炎が現れたときは

投与した腕に痛みを感じる、赤く腫れてきた、血管の色が変化したなど、少しでも違和感がある場合は、ただちに医師に伝えてください。

● 倦怠感が現れたときは

体がだるくなったり、集中力がなくなったりすることがあります。十分な睡眠をとり、音楽を聴いたり、散歩に出かけるなど、気分転換を心がけましょう。

● 感染を予防するには

治療開始7～14日後は好中球数が最も減少している時期です。感染予防が重要になるので、外出後帰宅時の手洗いやうがいを十分に行いましょう。また、発熱や悪寒を感じたら、医師に相談しましょう。

● 腎機能障害が現れたときは

腎機能障害は、十分な水分をとり、尿をたくさん出すことで軽減されます。尿量の減少や浮腫がみられたら、医師に相談しましょう。

症状がひどい場合や、ほかにも気になる症状がある場合は、すみやかに医師にご相談ください。